

平成28年度庄原市生徒指導主事等研修会

平成28年7月11日（月） 庄原市総合体育館 第2会議室

「庄原市における生徒指導上の諸問題の現状と課題を踏まえ、不登校の未然防止に係る取組及び不登校児童生徒の学校復帰に向けた対応について研修することで、市内小・中学校の組織的な生徒指導体制の充実に向けた取組を推進する。」ことを目的として研修会を実施しました。

講話・演習 平成28年度サテライト研修 生徒指導・教育相談「不登校への適切な対応講座」

広島県立教育センター 特別支援教育・教育相談部 指導主事 竹谷 浩子

【不登校問題の現状】

文部科学省の調査によると全国の平成27年度の不登校児童（小学生）、不登校生徒（中学生）は昨年度と比較してそれぞれ、1691人、1608人増加している。広島県においてもそれぞれ71人、34人増加しており、少なくとも60%以上の児童生徒が継続して不登校である。

※庄原市の不登校児童（小学生）、不登校生徒（中学生）の合計は33人で、昨年度と比較して、それぞれ、1人、2人増加している。不登校の要因として、**小学生は、友人関係をめぐる問題が最も多く**、続いて、進路に係る不安、家庭に係る状況（家庭の生活環境の急激な変化、親子関係をめぐる問題、家庭内の不和）となっている。**中学生は、学業の不振が最も多くな**っており、続いて、家庭に係る状況、友人関係をめぐる問題となっている。



【不登校のケースと対応】

不登校には、何かの出来事をきっかけに急激に不適応状態に陥る急性型と、日頃から欠席がちな児童生徒が大きなきっかけもなく、気が付いたら不登校状態になる慢性型がある。

急性型については、早期に不登校状態の解決を図ることが対応のポイントであり、最初は様子を見ながら休養させること、きっかけとなった事柄を探ること、治療的な対応で心の傷を癒すことが大切である。

慢性型については、家庭訪問を中心に取り組み、担任等の負担にならないようチームで対応すること、家庭訪問で学校の様子を伝えたり、学習プリントを渡したりすること、家庭訪問の際、保護者への支援を行うこと等が考えられる。

【実態把握と登校刺激の与え方】

	方針を立てる	対応する
前兆期 初期	<ul style="list-style-type: none">急激な変化、不安定な様子（急性型）であればしばらく休養させる。長くても3週間をめどに、心が安定するのを待つ。保護者と相談し、実行可能な計画を立てて登校を促していく。	<ul style="list-style-type: none">活発な児童生徒の場合、的確かつ迅速に対応する。休みがちな児童生徒の場合、関わりを切らず、継続して働きかける。家庭への支援のため、まず保護者とつながる。具体的に何ができるのかを判断して、提案する。無理は禁物である。自分で判断して実行したと思えるように支援する。学級の仲間の支援は、周囲の児童生徒の負担にならない程度で行う。
中期	<ul style="list-style-type: none">長期化の背景を探り、きっかけとなった問題が深い場合は、治療的対応をする。本人、家庭の回復力が弱い場合は、教育的対応をする。学校は関わりをもち続ける。日常的な話題、本人や保護者が明るくなるような話題を心がける。	<ul style="list-style-type: none">本人と関われない場合は、今後の見通しをもちつつ保護者と関わる。（保護者の心の安定）本人と関わることができる場合は、本人の好きなことや関心のあること、得意なことを話題にし関わりをつくる。保護者との連携について、家族から拒否されることもあるが、家族も苦しんでいると捉え、玄関先で対応することや学校から見捨てられていない安心感をもたせること、何曜日何時と決めて対応することが考えられる。家庭訪問の留意点（無理に会おうとしない。毎日訪問しようと考えない。電話は家庭を追い詰めることもある。本人との会話では、無理に聞き出さない。保護者が相談できる機関を紹介する。）

★ 各校の生徒指導部会、教育相談部会で活用し、個別の具体的な支援策の参考としてください。

【不登校児童生徒の見立て】

- ① タイプ分けチェックリストによる実態把握（A：心理的要因をもつ急性型、B：心理的要因をもつ慢性型、C：教育的要因をもつ急性型、D：教育的要因をもつ慢性型、E：福祉的要因をもつ急性型、F：福祉的要因をもつ慢性型）
 - ② 状態像チェックリスト（初期の安定・混乱期、中期の膠着・安定期、後期の回復・試行期）
 - ③ 回復を援助する関わり方チェックリスト（初期：安定させる、中期：エネルギーを貯めさせる、後期：活動への援助）
 - ④ 回復を援助する関わり方チェックリストの具体的な援助
- ※ 研修のまとめとして、不登校及び不登校傾向の児童生徒への適切な対応のために、チェックリスト等を紹介いただき、実際に活用してみました。

演習の様子



【アンケートから】

- ・ タイプ別チェックリスト等を活用することで、児童生徒理解も深まり、不登校や問題行動への未然防止につながることから、今後、生徒指導部会や校内研修で活用したい。
- ・ 組織的に児童生徒の様子を見とり、その後、組織的に対応していくことが大切だと思った。そのためにも、生徒指導主事が校内の不登校問題のコーディネーター役になりながら、教育相談体制を充実させていくことも大切だと感じた。